

家康の母・於大の方



# 東浦町観光協会

徳川家康の母として、水野家と松平家を支え

戦国時代を生きた **於大の方**



令和 5年 4月 15日  
( 2023年 )

東浦町観光協会

( 東浦町勤労福祉会館内 )

4/9

制作：東浦ふるさとガイド協会

於大の方と千姫 (文京つーしん)

# 戦国時代中期～後期を生きた 於大の方

## 幸せだったこと ( 厳しい戦国時代を生き残り・・・)

1. 息子家康が、征夷大將軍に任じられ江戸幕府を開いたこと (1603年)
2. 再婚した久松俊勝の息子たちも、松平の名を頂き大名 (親藩) になったこと  
娘たちも、それなりの家に嫁いだこと
3. 日本一の幸福な母として 1602年 75才の長寿を全う

伏見城で亡くなり、知恩院で葬儀、埋葬は小石川傳通院

# 戦国時代中期～後期を生きた 於大の方

## 不幸せだったこと (戦国に女性としては、当然ながら・・・)

1. 夫広忠に子の竹千代3才を残し離縁し去る (1544年17才)
2. 息子家康が、実家水野家当主の信元を、夫俊勝に案内させ大樹寺に呼出し殺害、実の息子のよう  
に育てた久松信俊を切腹させた (1575年 48才 信長の命)  
これを機に、水野家は離散、俊勝は気を病み出奔  
( 2人の夫ともに死別 )
3. 息子家康が、嫁の築山 (つきやま) 御前を殺害し、孫の信康を自害させた ( 1579年 52才 信長の命)

\*\*\* それでは、明德寺川右岸於大のみちの3 2枚のプレートに沿って・・・



# 東尾張と三河の勢力図 (1524年頃?)

- 室町時代後半、駿河(するが)と遠江(とおとうみ)を領有 (守護職)

する今川義元は、  
三河を攻略し尾張  
にも進出しはじめた




佐治氏

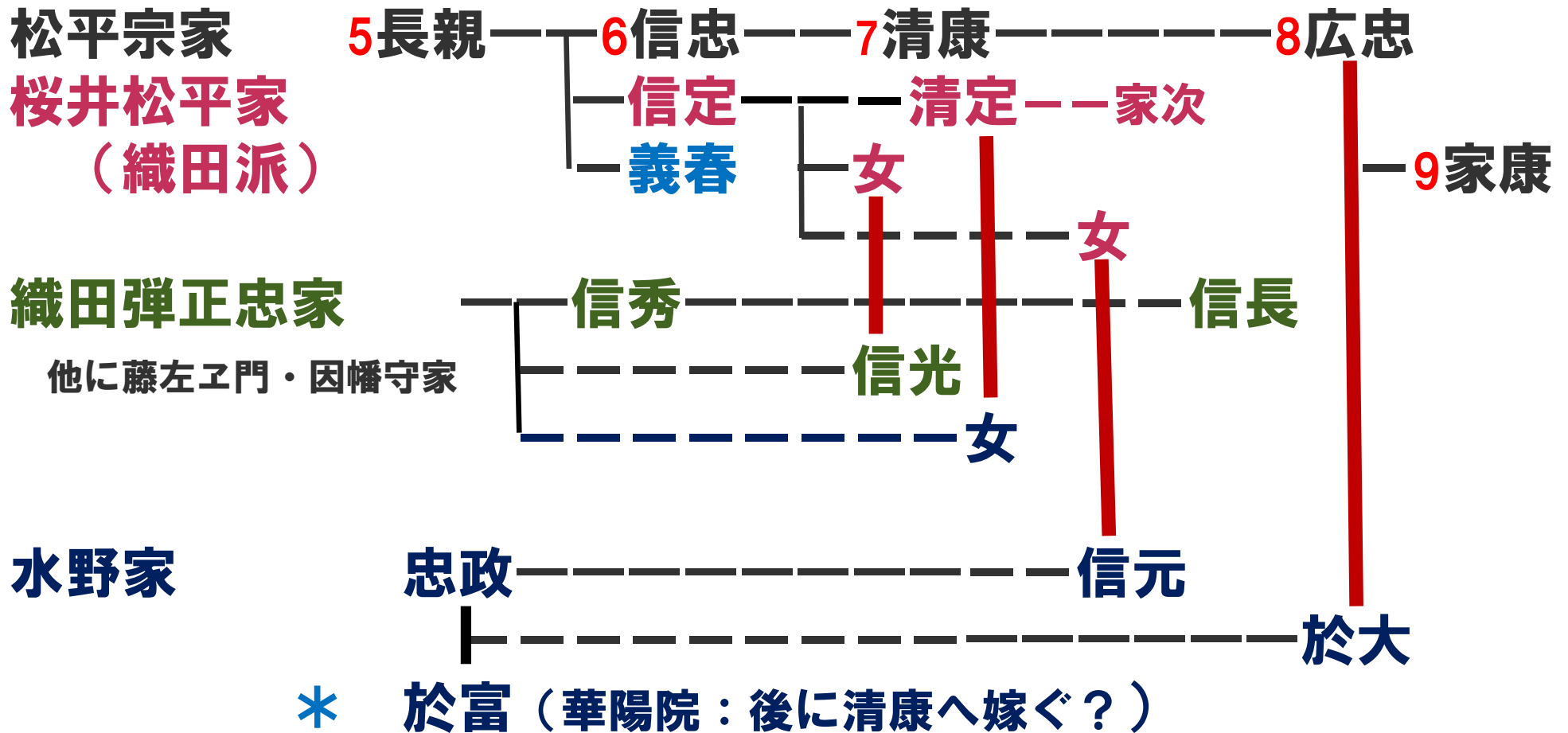
1524年：  
安祥4代松平清  
康が大草松平  
昌安の岡崎城を  
攻める

1525年：清康が  
足助城鈴木  
重政を墜とす

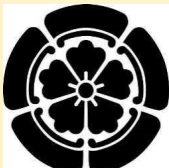




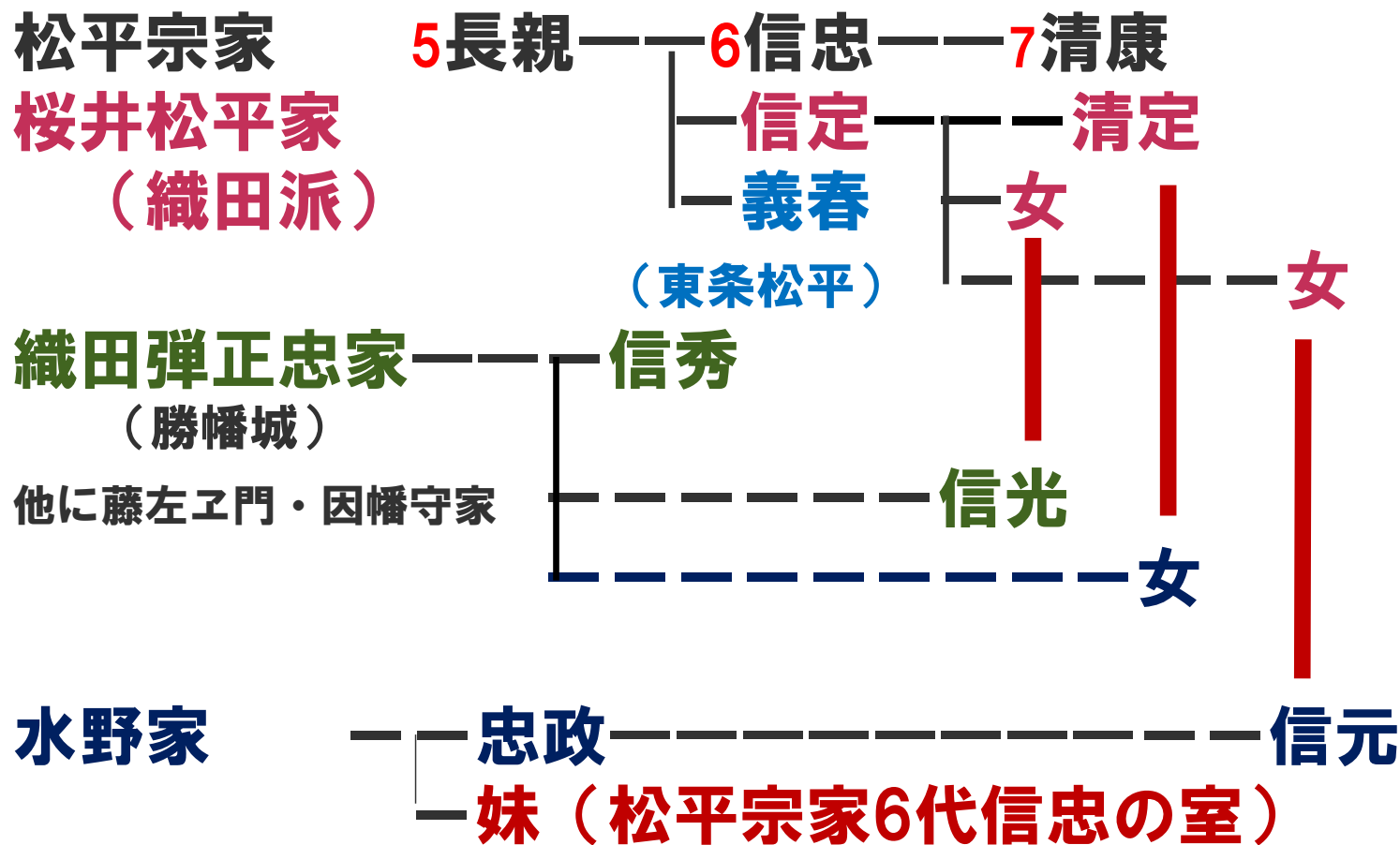
# 当時の三者（織田・水野・松平）の婚姻関係 1

年	 <b>織田 信秀</b> <b>信長</b>	 <b>水野 忠政</b> <b>信元</b>	 <b>松平 清康</b> <b>広忠</b>
	<b>信秀の妹が松平 信定嫡男清定の 正室</b>	<b>忠政の妻は、大草松平昌安の娘 →その子が信元、於上（おじょう） →信元の妻は桜井松平信定の娘</b>	<b>1526年頃 清康安祥城か ら現岡崎城へ</b>



# 当時の三者（織田・水野・松平）の婚姻関係 2

年	 <b>織田 信秀</b> <b>信長</b>	 <b>水野 忠政</b> <b>信元</b>	 <b>松平 清康</b> <b>広忠</b>
	信秀の妹が松平 信定嫡男清定の 正室	忠政の妻は、大草松平昌安の娘 →その子が信元、於上（おじょう） →信元の妻は桜井松平信定の娘	1526年頃 清康安祥城から 現岡崎城へ



桜井松平信定は当初から織田派  
 弟義春は後に村木砦の城将

松平信定の娘は、織田信光と水野信元に嫁ぐ  
 （信光と信元は義兄弟となる）



# 於大の方 ものがたり 1

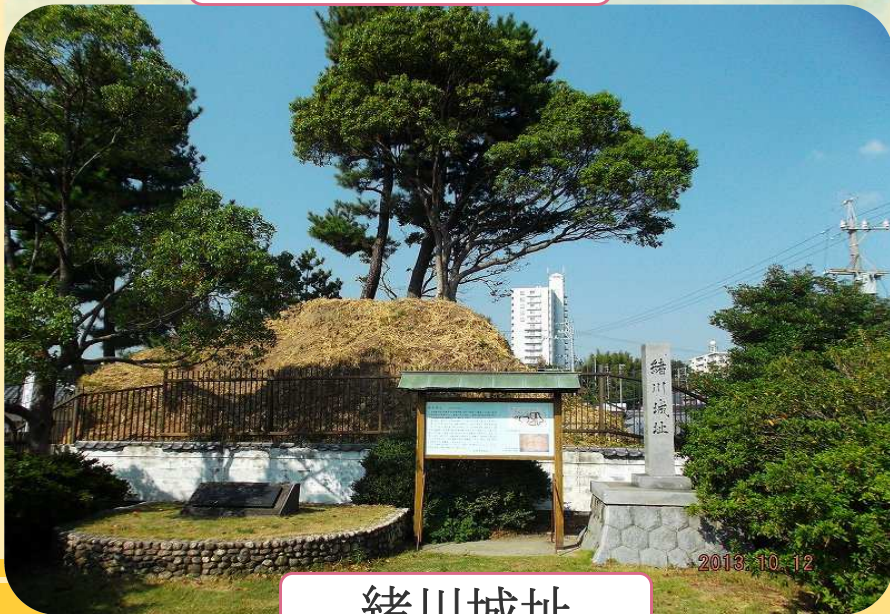


緒川城イメージ

於大の方誕生(1才)  
1528年(享禄元年)

第四代緒川城主水野忠政の  
娘として緒川城で生まれる

母は、於富の方(華陽院)



緒川城址



於大のみち 生き立ち広場



# 於大の方 ものがたり 1 生き立ち広場の人物



父忠政

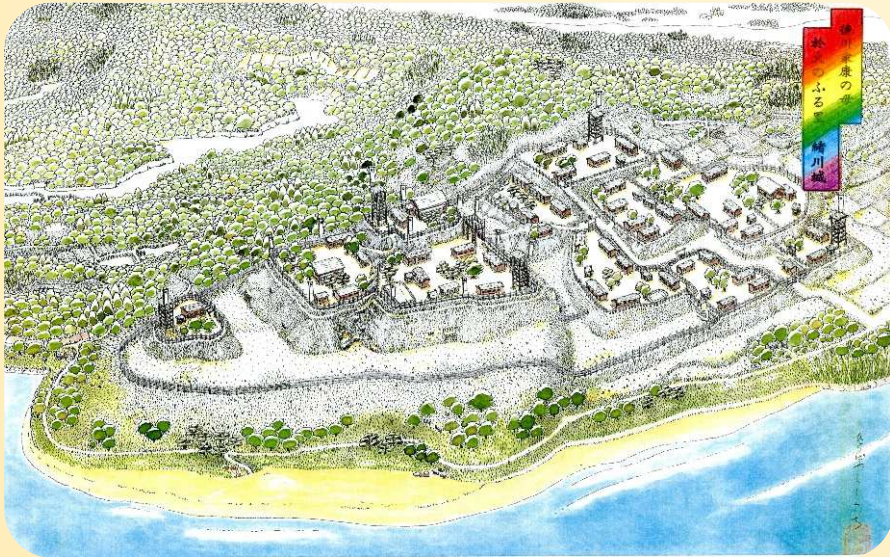
兄信元と  
姉於上  
の方

於大を抱く母  
於富の方

侍女  
2人



# 於大の方 ものがたり 2



於大の方誕生(5才)  
1532年(天文元年)



三河を征した岡崎城主松平清康(家康の祖父)から求婚されたお富の方は、忠政に離縁され清康に再嫁



緒川城址



2013.10.12



# 当時の三者（織・水・松）の関係

年	 <b>織田 信秀</b> <b>信長</b>	 <b>水野 忠政</b> <b>信元</b>	 <b>松平 清康</b> <b>広忠</b>
1532	<b>信秀が、16世紀前半に今川9代氏親築城の那古野城（現名古屋城）を今川氏豊（義元の弟）を騙して奪取</b>		
1533		<b>忠政刈谷城</b> <small>（亀城）</small> <b>を築城</b>	<b>清康 東三河へ進出</b>
1535	<b>織田信秀の弟</b> <b>信光が守る守山城を清康に攻められる。</b> <b>信秀・松平信定</b> <b>VS</b> <b>織田藤左エ門尉</b> <b>寛故（とおまさ）・</b> <b>松平清康</b>	<b>松平氏とは友好</b> <b>→</b> <b>水野信元守山城</b> <b>攻めに行軍中</b> <b>←織田とも協力</b> <b>関係の</b> <b>←両面外交→</b>	<b>守山（森山）崩れ</b> <b>清康暗殺 享年25才</b> <b>跡を広忠が継ぐが、</b> <b>祖父信忠の弟の</b> <b>桜井松平信定に岡</b> <b>崎城から追放される</b>



# 於大の方 ものがたり 3



刈谷城社碑(刈谷市)

於大の方誕生(6才)  
1533年(天文2年)

水野忠政は西三河へ進出  
対岸に刈谷城(亀城)を築城  
家臣団と共に移る  
緒川城には、信元が残る



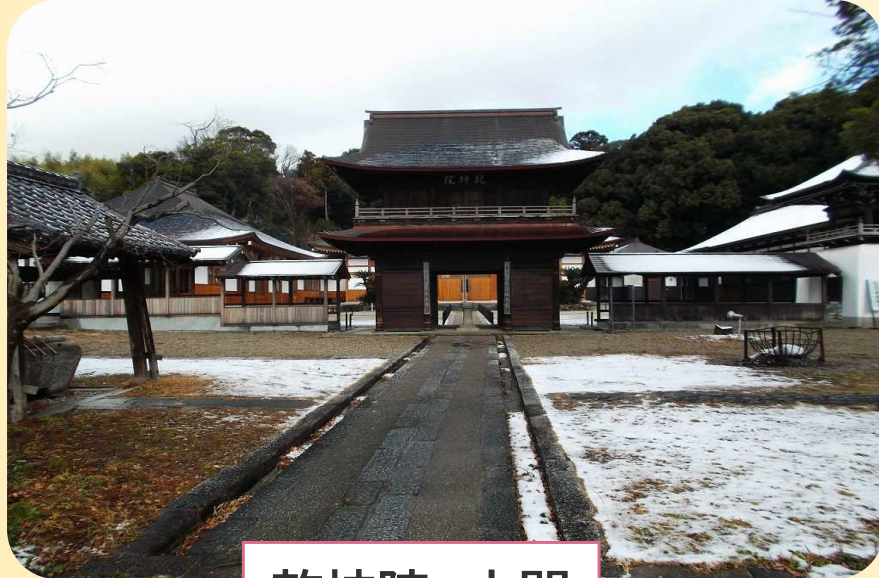
刈屋城縄張り (西は衣浦湾)



於大まつり

刈谷城への  
引っ越しを  
再現した  
写真は於大

# 於大の方 ものがたり 4



乾坤院 山門



乾坤院 仏殿(新)

於大の方誕生 11才  
1538年(天文7年)

緒川から刈谷城に移った於大は、初代水野貞守をはじめ祖先の墓がある乾坤院へ、土地を永代寄進した。

宇宙山 乾坤院 (けんこんいん)  
曹洞宗 (本山は総持寺)

初代水野貞守が緒川城とともに、1475年に菩提寺として創建した



# 当時の三者（織・水・松）の関係

年	 <b>織田 信秀</b> <b>信長</b>	 <b>水野 忠政</b> <b>信元</b>	 <b>松平 清康</b> <b>広忠</b>
1540	<b>信秀安祥城を                      落し、庶長子                      信広を置く</b>	<b>←忠政 織田信秀の                      安祥城攻めに加担                      （織田方に加担）</b>	<b>広忠 対織田の                      助力を得るために                      水野氏に縁談を                      申入れ</b>  <b>織田への防波堤を                      期待</b>

# 於大の方 ものがたり 5



岡崎城東隅櫓

於大の方(14才)  
1541年(天文10年)

岡崎城松平清康の跡を継いだ  
広忠(16才)は、東の今川氏に  
属し、西の織田信秀に対抗す  
るために水野忠政と結ぼうと  
考え、於大は広忠へ嫁いだ



於大の方と広忠 (刀剣ワールド)



丸に抱き沢瀉 (水野宗家)



徳川葵



# 於大の方 ものがたり 6



岡崎城の竹千代像



鳳来寺本殿（新城市）

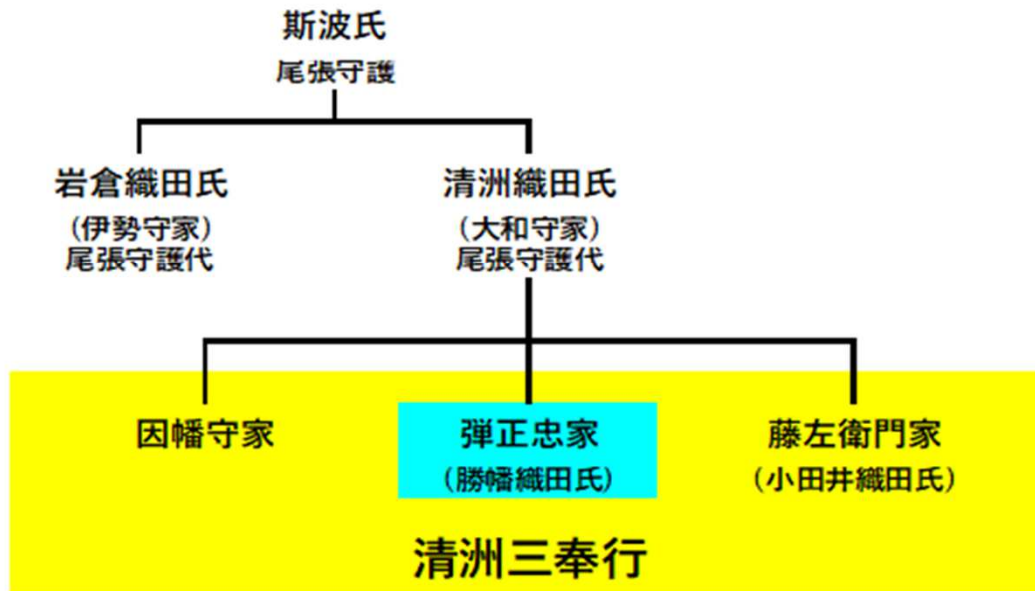
於大の方 15才  
1542年(天文11年)

岡崎城で竹千代を出産

広忠には、於大が嫁ぐ前に既に  
大給(おぎゅう)松平の娘との間に  
男子2人がいたが、事前に退いて  
いる

# 於大の方 ものがたり 7

尾張国の守護・守護代と清洲三奉行



於大の方 16才  
1543年(天文12年)

父忠政が病死、跡を継いだ  
兄信元は、今川・松平の敵  
尾張の織田信秀と同盟  
(織水同盟)



勝幡城社(稲沢市)



那古野城跡 (名古屋城二の丸 Wikipedia)



# 於大の方 ものがたり 8



刈谷城外の椎の木屋敷跡



刈谷城東のお濠

於大の方 17才  
1544年(天文13年)

夫広忠は、信元の誘いに応じず、そして敵方の妹を妻としておけず、於大を離縁  
於大は3才の竹千代を残して刈谷へ帰される

信元、同盟を下に知多半島を制圧

阿久比宮津城 : 新海氏  
半田 成岩城 : 榎本氏  
武豊 長尾城 : 岩田氏  
河和 富貴城 : 戸田氏

# 於大の方 ものがたり 9



楞嚴寺 (りょうごんじ)



善導寺

於大の方 19才  
1546年(天文15年)

於大は残してきた竹千代を  
想いながら刈谷城外の椎の  
木屋敷(しいのきやしき)に姉の  
於上(おじょう)の方(同じく形原  
松平から離縁させられた)ともに  
住んだ

刈谷の楞嚴寺(りょうごんじ)で  
仏門に入り手持ち品を納め、  
緒川の乾坤院や善導寺へた  
びたび参詣していた



# 当時の三者（織・水・松）の関係

年	 <b>織田 信秀</b> <b>信長</b>	 <b>水野 忠政</b> <b>信元</b>	 <b>松平 清康</b> <b>広忠</b>
1547	竹千代は熱田湊の加藤屋敷へ。信長と出会う		竹千代人質として駿府へ送られる途中、田原城で戸田康光の裏切りで織田方へ
1548	織田信秀VS今川・松平広忠		織田との小豆坂の戦い
1549	信広：竹千代の交換  信長（16才）濃姫との結婚	<div data-bbox="869 1086 1503 1576" data-label="Text"> <p>今川方の盛り返し</p> </div>	広忠 死去24才 <b>今川義元の軍師 太原雪斎(たいげんせっさい)が安祥城を攻め信広を生け捕り。</b> <b>竹千代(8才、後の家康)は人質交で駿府へ。</b>

# 於大の方 ものがたり 10



坂部城址 (阿久比町)



於大の方の(阿久比町図書館所蔵)

於大の方 20才  
1547年(天文16年)

春、阿久比坂部(さかべ)城主  
久松長家(ながいえ)へ再嫁。

(元康が家康に改名の際義父から  
「家」をもらったので、後に名を  
「俊勝」に改名)

岡崎では織田の大軍の乱入に  
耐え切れず、広忠は今川へ  
援助を依頼。

義元は受託するも、人質と  
して竹千代(6才)を求めた。



# 於大の方 ものがたり 11



熱田湊跡 (2023年3月)



加藤屋敷跡(熱田区馬町羽城公園)

於大の方 20才  
1547年(天文16年)

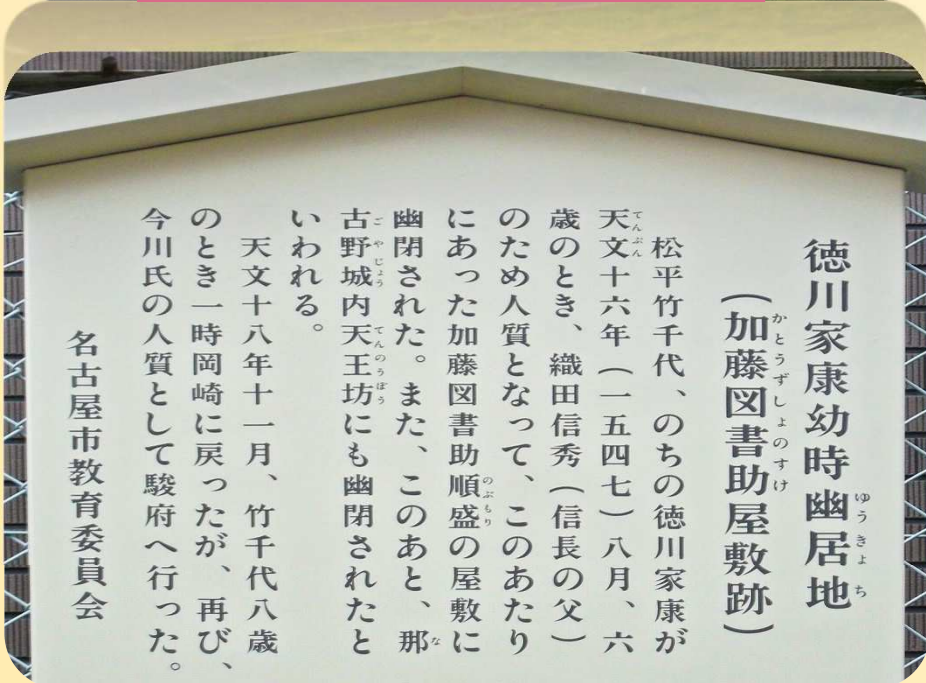
竹千代は人質として駿府へ向かうも、織田に寝返った田原城の戸田康光(継母真喜(まき)姫の実家)に奪われて銭千貫で織田信秀に売られて熱田の加藤凶書助順盛(かとうずしよのすけのぶもり)屋敷に送られた。

竹千代は熱田で信長(15才)と初対面か。

# 於大の方 ものがたり 12



熱田湊跡 (2023年4月)



徳川家康幼時幽居地  
(加藤図書助屋敷跡)  
松平竹千代、のちの徳川家康が  
天文十六年(一五四七)八月、六  
歳のとき、織田信秀(信長の父)  
のため人質となって、このあたり  
にあった加藤図書助順盛の屋敷に  
幽閉された。また、このあと、那  
古野城内天王坊にも幽閉されたとい  
われる。  
天文十八年十一月、竹千代八歳  
のとき一時岡崎に戻ったが、再び、  
今川氏の人質として駿府へ行った。

名古屋市教育委員会

加藤屋敷跡(羽城公園内看板)

於大の方 20才  
1547年(天文16年)

熱田の加藤図書助順盛(かとうずしよのすけのぶもり)屋敷で暮らす竹千代のもとへ、於大は折々のお菓子や手縫いの着物に手紙を添えて励まし続けた。

また、阿弥陀経を血書して毎日無事を祈った



# 於大の方 ものがたり 13



安祥城社（安城市）



笠寺観音寺人質交換の碑（2023年4月）

於大の方 22才  
1549年(天文18年)

3月に広忠は家臣に殺される。

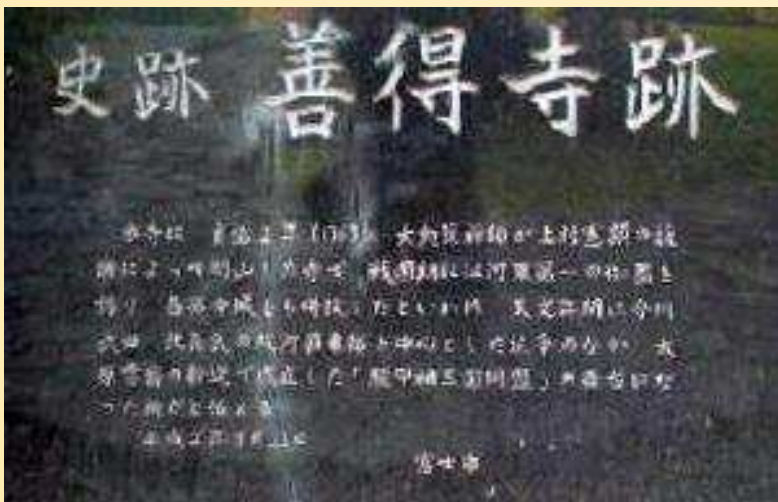
一方、今川は軍師大原雪斎と軍を派遣し安祥城を攻め落とし、城主織田信広を生け捕り。笠寺観音で信広と竹千代の人質交換、竹千代は駿府へ。

(今川として松平家を大事にしていた証か)

# 於大の方 ものがたり 14



太原雪斎の臨濟寺



善得寺跡

於大の方 22才  
1549年(天文18年)

駿府へ移った竹千代の許へ於大は絶えることなく使いをよこして励ましたり、於大から今川義元に頼んで母源応尼(げんおうに:お富の方)が竹千代の養育に当たることができるように図らった。

竹千代は善得寺(ぜんとくじ)に入り、今川義元が幼い時に教えを受けたように、太原雪斎による英才教育を受けた。(諸説あり)



# 当時の三者の関係

年	 織田 信秀 信長	 水野 忠政 信元	 松平 清康 広忠
1551	<p>信秀没し、信長が跡を継ぐが家内をまとめるに至らず。</p> <p>織田本家2家 (岩倉・清州) とも 軋轢</p> <p>(まさに内憂 外患の苦し 時期だった)</p>	<p>今川方の 盛り返し</p>	<p>今川方は、 織田方の 重原城、沓掛城、 鳴海城、大高城 を自軍へ取込む</p>

# 於大の方 ものがたり 15



善導寺

## 佛供田(ぶくでん) とは

大名などの寺の保護者が仏様に米を供えるために寄進した田畑のこと

於大の方 25才  
1552年(天文21年)

於大は長男康元(やすもと)を産む(以下二男四女誕生)

男子: 康元(勝元)、康俊(勝俊)、定勝  
女子: 多劫姫(たけひめ) 以下3名  
(内1名は若くして死亡で3女)

緒川の善導寺へよく参詣して三尊来迎(さんぞんらいごう)の像と佛供田(ぶくでん)を寄進した。



# 当時の三者（織・水・松）の関係

年	 織田 信長	 水野 忠政 信元	 松平 清康 広忠
1553	救援を乞われるが 直ぐには出れず	← 砦を造られた	池鯉鮒 重原城から 村木村を急襲し 砦を造る
1554	<b>1月24日 村木砦の戦い</b>		
1557			松平元信16才（家 康）と今川義元の姪瀬 名姫（築山殿）と結婚
1558		<b>1回目 石ヶ瀬川信元VS元康17才の戦い</b> 義元の命で水野を攻める	

# 於大の方 ものがたり 16



信長の進軍(東浦町教育委員会)



村木砦の戦い (東京都藤井ひさお氏)

於大の方 27才  
1554年(天文23年)

村木砦の戦い (1月24日)  
(桶狭間の戦いの6年前)

前年に水野領を急襲し構築した今川軍の村木砦を、水野信元と織田信長連合軍が攻め勝利。

信長が初めて火縄銃を使った戦いだった。



# 於大の方 ものがたり 17



城山公園(坂部城址:阿久比町)

於大の方 33才  
1560年(永禄3年)5月17日  
(桶狭間合戦の2日前)

## 於大の方と松平元康の再会

今川軍の先鋒体隊元康(19才)は、池鯉鮒(ちりゅう)から敵方の阿久比へ馬を駆け、母於大の方と17年振りの涙の再会を果たした。

初対面の異母弟(康元、康俊、定勝)に松平の姓を与えた。



於大のみち 再会広場

# 於大の方 ものがたり 18



桶狭間の戦い古戦場 (刀剣ワールド)



大樹寺  
(岡崎市)

於大の方 33才  
1560年(永禄3年)

桶狭間合戦(5月19日)  
(桶狭間は水野家の家臣・中山勝時の領地)

信長の奇襲作戦で今川義元は討死、大高城の元康は孤立。

これを助けたのは緒川の信元で、急ぎ家臣の案内で、信康は岡崎の松平家菩提寺大樹寺着。そして空になった岡崎城へ入城



# 「桶狭間の戦い」その後の三者のできごと

西暦年	 <b>織田 信長</b>	 <b>水野 信元</b>	 <b>松平 元康</b>
<b>1560 1561</b>	 <b>2回の 石ヶ瀬川 (信元VS元康) の戦い</b>		
<b>1562</b> (永禄5)	<b>尾三(清洲)同盟</b>  東は水野・松平が固めているため北の美濃岐阜城への攻めに専念できる	<b>←同盟を斡旋→</b> <b>( 織水松 同盟 )</b>  <b>知多全域へ</b>	<b>尾三(清洲)同盟</b>  水野・織田が固めているため、東の三河攻めに専念できる

# 於大の方 ものがたり 19



於大の方 35才  
1562年(永禄5年)

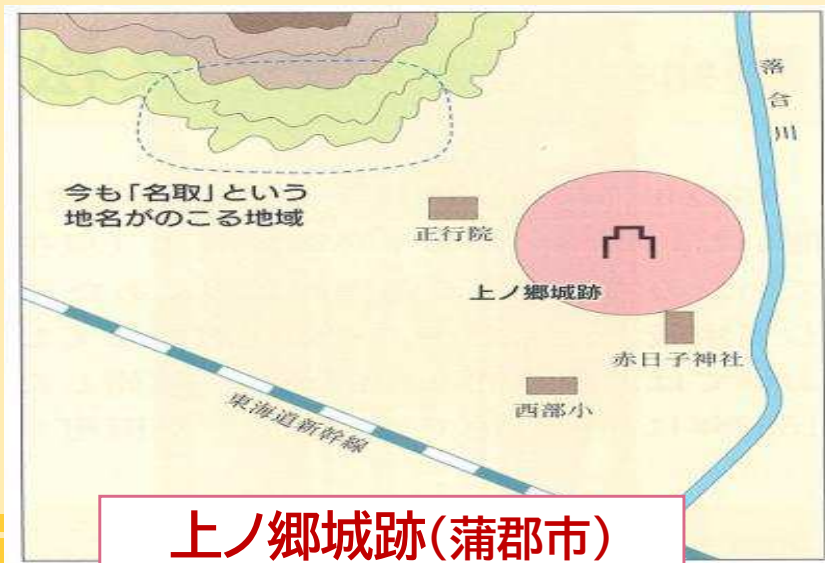
## 織・水・松同盟の締結

信元の仲介で織田信長と松平元康が清州城で同盟を結ぶ

## 蒲郡上ノ郷(かみのごう)城攻め

信康、鵜殿長照を攻めて落城させその子息2人と駿府に残した瀬名・竹千代・亀姫と交換した。




この後、久松俊勝が上ノ郷城主となった



上ノ郷城跡(蒲郡市)



# 「桶狭間の戦い」その後の三者のできごと

西暦年	 織田 信長	 水野 信元	 松平 元康
1563	清州城→ <b>小牧山城</b> へ	信元・忠重が 元康を <b>助けた</b> →	三河一向一揆で <b>苦戦</b>  元康→ <b>家康</b> に改名 義父長家から「家」を
1564		元康を <b>助けた</b> →	三河一向一揆を <b>鎮圧</b>
1566	美濃攻略のため、 <b>墨俣城</b> を築城		東・奥三河国を平定 松平→ <b>「徳川」</b> に改姓
1567 (永禄10)	近江浅井長政と同盟。 <b>お市の方</b> を送る  稲葉山城斎藤竜興を落とす→ <b>岐阜</b> と改名		長男竹千代9才は、 信長長女徳姫9才と結婚  竹千代 <b>「信康」</b> に改名

# 「桶狭間の戦い」その後の三者のできごと

西暦年	 織田 信長	 水野 信元	 徳川 家康
1567 (永禄10)	近江浅井長政と同盟。 <b>お市の方を送る</b> 稲葉山城斎藤竜興を落とす→ <b>岐阜と改名</b>		長男竹千代9才は、 信長長女徳姫9才と 結婚 竹千代「 <b>信康</b> 」に改名
1570	朝倉・浅井 <b>姉川の戦い</b>	佐和山城を攻める	姉川の戦いに参戦 岡崎城→浜松城へ
1572	<b>信元</b> 浜松城で <b>家康を助ける</b> →		<b>武田信玄に三方ヶ原                      の戦いで完敗し                      浜松城へ敗走</b>
1575 5月	<b>長篠の戦い</b> 織田・水野・徳川連合軍 VS 武田勝頼		



# 於大の方 ものがたり 20



岩村城 六段壁(恵那市観光協会)



大樹寺 (岡崎市)

於大の方 48才  
1575年(天正3年)  
(1576年1月)

## 水野家の悲劇と離散

信元が武田方の岩村城に内通との佐久間信盛の讒言により、信長の命令で家康は久松俊勝に大樹寺へ案内させ、重臣の平岩親吉と石川数正に信元を殺させた。

織田・徳川にとって伊勢湾・知多半島の水野氏(24万石)は邪魔になったか？

於大の方は、数正を恨んだ云う。  
(後の数正出奔の理由との説)

# 於大の方 ものがたり 21



楞嚴寺（刈谷市）

於大の方 48才  
1575年(天正3年)

## 信元の悲劇は続く

信元の罪により、養子元茂(もとしげ: 信近の子)も、佐久間信盛に殺された。

こうした中でひとり信元の子利勝は3才の幼子であったので乳母の手で岡崎に逃れ土井家の養子としてかくまわれた。これが三代将軍家光の守役、幕府の大老となった土井利勝である。



十念寺（刈谷市）



# 於大の方 ものがたり 22



佐久間信盛  
( Wikipedia 長篠合戦図屏風より)



坂部城跡 (城山公園:阿久比町)

於大の方 48才  
1575年(天正3年)

さらに、久松家の悲劇にも

2年後になっても坂部城主久松信俊(のぶとし:俊勝の庶長子)とその子共たちも佐久間信盛に殺された。これにより、緒川・刈谷や阿久比の所領は全てに佐久間に与えられ、水野一族は分散。

俊勝は、家康この仕打ちに気を病み出奔した。

# 「桶狭間の戦い」その後の三者のできごと

西暦年	 織田 信長	 水野 信元	 徳川 家康
1576	<b>信長安土城へ</b> 緒川・刈谷城とも讒言した佐久間信盛領となる <b>(水野氏離散)</b>		
1579	信長が徳姫からの訴状を受け家康に信康の <u>処刑</u> を命じたとされる		<b>家康の決断</b> <b>信康 二俣城で切腹</b> <b>築山御前 殺害</b>  <b>三男 秀忠誕生</b>



# 於大の方 ものがたり 23



築山御前

(Wikipedia)  
(パトリック  
ドメイン)



岡崎城主社

) Jokaku-horoki

於大の方 52才  
1579年(天正7年)

そして、徳川家にも悲劇が

家康の正室築山御前と長男信康(岡崎城主)が武田方に通じているとして、信長の命令で殺害・自害させられた。

於大にとっては嫁(39才)、孫(21才)を失った。

信康の正室徳姫が信長に訴えた築山御前と信康の12か条の訴状

# 於大の方 ものがたり 24



## 堀に囲まれた本願寺と寺内町

天文2年(1533)に浄土真宗本願寺派の本山となった大坂(石山)本願寺と寺内町の復元模型。当時「摂州第一の名城」といわれ、「天下布武」を標榜した信長でさえも攻略することができませんでした。



## 石山本願寺の跡石碑 本願寺と寺内町

(デジカメ写真館)

於大の方 53才  
1580年(天正8年)

信長は、長年の大阪石山本願寺攻めを勅命により和睦したが、この戦いの総大将佐久間信盛の怠慢を責めて高野山へ追放した。



# 於大の方 ものがたり 25



## 水野忠重の肖像

(原本は京都東福寺塔頭靈源院 Wikipedia)

於大の方 53才  
1580年(天正8年)

佐久間を追放した信長は、緒川・刈谷城主であった信元に罪がなかったことがわかり、信元の弟忠重を緒川・刈谷旧領に復帰させ

忠重は刈谷城主(本家)に、忠守は緒川城主になり、

水野氏と緒川との関係が戻った。

# 当時の三者（織・水・徳）の関係

年	 織田 信長	 水野 一門	 徳川家康
1582	<b>本能寺の変</b> 明智光秀謀反 <b>信長没</b>	家康の3大危機 1三河一向一揆 2三方ヶ原の戦い (於大の方 55才)	<b>本能寺の変後の</b> <b>堺 → 伊賀越え</b> <b>岡崎城へ帰還</b>
	 豊臣 秀吉		
1584	<b>小牧・長久手の戦い</b> 豊臣 秀吉 (犬山城 3万人) VS 徳川 家康 (小牧山城 1.5万人) 永井直勝が池田恒興を討つ		



# 於大の方 ものがたり 26



安楽寺本堂（蒲都市1915年焼失）



洞雲院総門(阿久比町)

於大の方 60才  
1587年（天正15年）

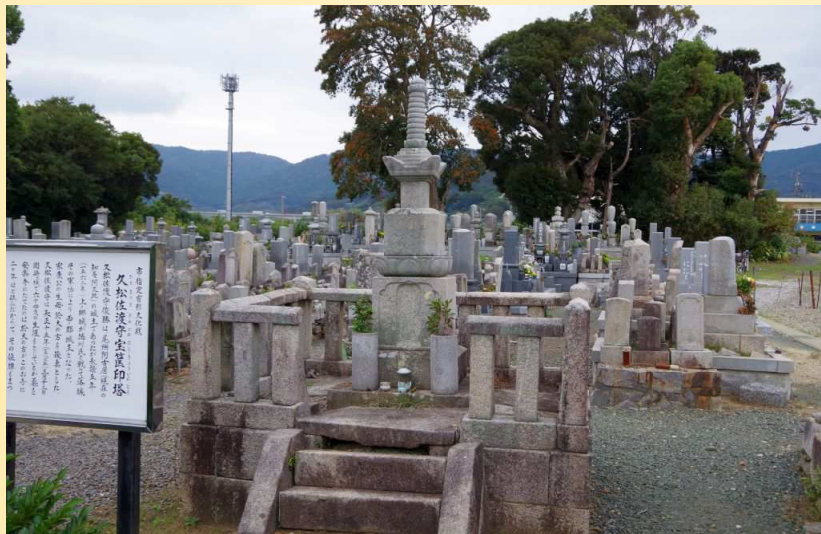
蒲郡上ノ郷城主の夫久松俊勝は失意のうちに西郡（にしごおり：蒲都市）で死亡。（享年62才、岡崎城との説も）

遺骨は、蒲郡の安楽寺（あんらくじ）と、阿久比の洞雲院（とううんいん）に葬られた。

# 於大の方 ものがたり 27



傳通院肖像



安楽寺久松俊勝宝篋印塔(蒲郡市)

於大の方 61才  
1588年(天正16年)

於大は、夫久松俊勝の眠る蒲郡安楽寺の寿慶上人(じゅけいしょうにん)により薙髪式(ちはつしき)を行って尼(あま)となり傳通院(でんつういん)と云われるようになった。

薙髪(ちはつ)  
仏門にはいる際、髪を剃り落とすこと。  
剃髪(ていはつ)とも



# 於大の方 ものがたり 28



江戸城伏見櫓 (写真:岡 泰行氏)

久松俊勝 — — 康元・下総関宿  
— 康利・久能城主  
— 一定勝・下総小南

於大の方 63才  
1590年(天正18年)

家康は、秀吉の小田原(北条氏)征伐後、関東六か国へ移封。一族と共に江戸城へ入る。

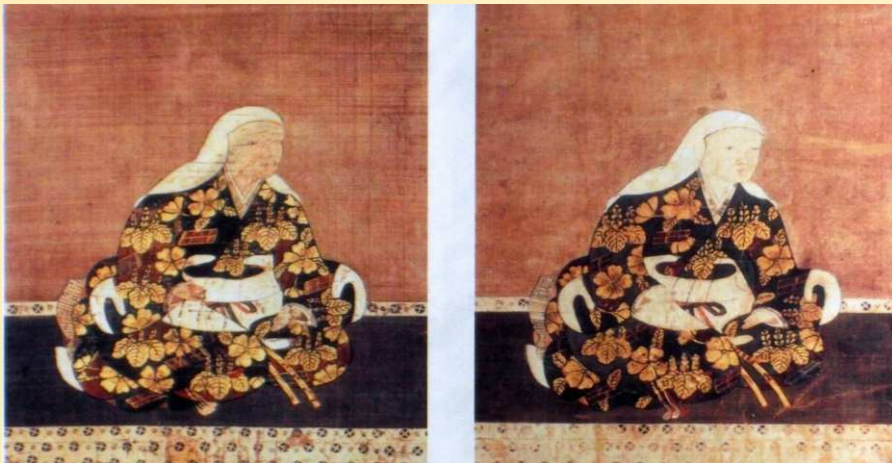
長男松平康元は、上ノ郷城主から下総(しもうさ)関宿(せきやど:千葉県野田市)城主へ、(2万石)  
三男定勝は下総小南(こみなみ:千葉県香取郡小南)城主(3千石)。

尚、次男康俊は1583年久能城主となるが、3年後に死亡。

# 於大の方 ものがたり 29



刈谷 楞嚴寺総門（刈谷市）



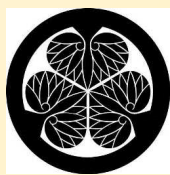


鏡の御影 左傳通院と右華陽院（刈谷市役所HP）

於大の方 67才  
1594年（文禄 3年）

於大は、永禄3年に駿府で亡くなった母華陽院(けよういん)の姿と自分の姿を一对のものにして絵師に描かせ、鏡の御影(みえい)として刈谷 楞嚴寺(りょうごんじ)に納めました。

# 当時の三者（豊・水・松）の関係

年	 豊臣 秀吉	 水野 一門	 徳川家康
1592	朝鮮出兵 文禄の役		出兵せず
1597	朝鮮再出兵 慶長の役		出兵せず
1598	秀吉死亡62才 直前に、「五大老・五奉行・三中老」を制度化 五大老： 徳川家康、前田利家、毛利輝元、宇喜多秀家、上杉景勝 五奉行： 浅野長政、前田玄以、石田三成、増田長盛、長束正家 三中老： 生駒親正、堀尾吉晴、中村一氏		
1600	関ヶ原の戦い		



# 於大の方 ものがたり 30



伏見城 (写真：岡 泰行氏)



絹本着色高台院像 (高台院蔵・Wikipedia)

於大の方 75才  
1602年 (慶長 7年)

於大は、長男康元、三男の子  
松山城主定行に伴われて伏見  
城の家康を訪ね、  
後陽成(ごようぜい)天皇に拝謁

征夷大將軍任命(1603年)の事前の  
朝廷工作か

高台院(こうだいいん:秀吉の正室  
お禰)を訪ね  
秀吉を祀る豊国(ほうこく:)神社を  
参拝した。

# 於大の方 ものがたり 31



知恩院 御影堂 (写真：知恩院)



知恩院 三門 (写真：知恩院)

於大の方 75才  
1602年 (慶長 7年)

慶長7年に発病した於大は、伏見城で家康らに看取られながら「日本一の幸せな母」として8月28日75才の生涯を閉じた。法名は、傳通院殿蓉誉光岳智香大禅定尼 (でんつういんでんようようこうがくちこう だいぜんじょうに)と号す。

於大の葬儀は、浄土宗総本山知恩院(ちおんいん)で営まれた。



# 於大の方 ものがたり 32



小石川 傳通院 (文京つーしん)



於大の方の墓 (傳通院、文京つーしん)

於大の方 75才  
1602年 (慶長 7年)

於大の遺骸は、江戸に移つされ大塚の智香寺(ちこうじ)で火葬され、小石川の無量山傳通院(でんつういん)に葬られた。

(「傳通」の表記:  
でんつう、でんづう、でんずう、  
でんず、 何れでも可 )

位牌は、緒川善導寺と乾坤院にも安置されている。



## 出展先・参考文献資料

浄土宗総本山 知恩院

刀剣ワールド 文京つーしん

東京都 藤井ひさお 氏

大阪市 岡 泰行 氏

近隣市町村（市役所・役場、観光協会）

安城市 阿久比町 恵那市 岡崎市

刈谷市 蒲郡市 稲沢市 新城市

**\*ありがとうございました\***

文献

東浦歴史散歩

歴史散策路 於大のみち

於大の方と水野一族

東浦の歴史と文化 2022

（東浦ふるさとガイド協会発行）

家康の母・於大の方



**おだいちゃん**

**ご静聴 ありがとう  
ございました**